

フォーラム
障害者とICT2008へ参加して

福島県支部 八代 弘

去る5月25日に、東京・セシオン杉並において、日本障害者協議会主催で、日本障害者フォーラム、日本障害者リハビリテーション協会、東京都障害者ITサポートセンターなどの協力で、人と人がつながり、だれもが幸せに生きることのできるICT（情報コミュニケーション技術）をすべての人びとに！と云うテーマでのフォーラムの開催でした。

この誘いは、情報のユニバーサルデザイン

を推進しているユードットからでしたが、主催したJD（日本障害者協議会）は、長い間、パソコンボランティアなど、人と人との支援のネットワーク化をはかってきています。同時に近年の状況から、障害のある人の実態をさまざまな視点から明らかにし、内外の激動する情勢を学び合うと云う趣旨で、障害のある人びととICT利活用のための課題を深めようとフォーラムが企画されていました。

特に国連の障害者権利条約が、5月3日に条約が批准されたのを受けコミュニケーションは喜び、権利条約は、第2条で「コミュニケーション」と「ユニバーサルデザイン」を



ITC フォーラムの様子

第9条で「アクセシビリティ」※1を、第21条で「情報へのアクセス」を規定されていた。

この10年の間に、パソコンやインターネット、携帯電話などの環境は激変し、教育や就労への取組みが進められている一方で、利活用における格差は広がっています。

また、IT (Information Technology) と表現してきたこの分野を、権利条約が表現するICT（Technology 情報コミュニケーション技術）として、人と人をつなぐ人間のコミュニケーションの不可欠な道具として、位置づけたいとの願いが込められ、夢の扉も、今後同じ様な流れになるのかと思いました。

帰りの地下鉄では偶然に、今回のフォーラムのシンポジスト：茂森 勇（サンマイクロシステムズ）さんとご一緒できました。

※<http://www.nginet.or.jp/~kinbe/ITdp/it0109.html>

Sunのイギリスに7年、アメリカで12年海外生活を経験している方ですが、世の中には凄い人がいるものです。今回思い切って参加して良かったです。後日茂森さんから「夢ありき」の題名の本を頂き、「夢がなければ、生きていく意味がない。…」の言葉が印象的でした。

※1高齢・ハンディを持つ人が、利用しやすいかという意味